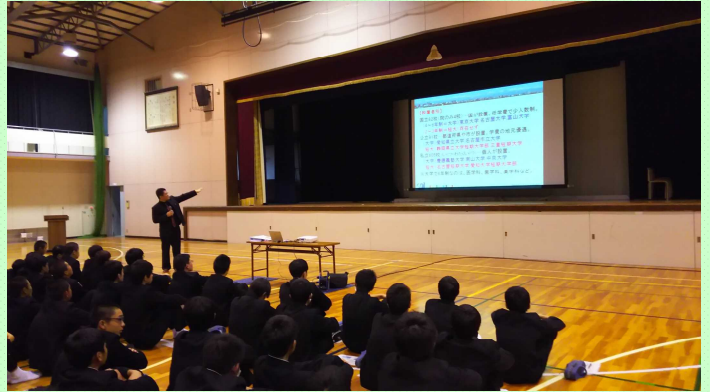


1年生・進路講話

～進学指導重点校事業～

進路指導課

11月12日（月）7限・総合学習の時間に、「1年生・進路講話」を行いました。富山大学・船橋伸一先生にお越しいただき、現代の大学を取り巻く環境や将来の生活を見据えた大学選びについて分かりやすく教えていただきました。感想の中にも、大学に対する考え方の変化や国公立大学に向けて頑張りたいという声が多く見られました。



【生徒の感想より】

- ・大学はよく考えて決めないといけないということが改めてわかった。偏差値はあまり当てにならないということにびっくりしました。見せてもらったデータからも、国公立を目指した方が良いと思ったので、国公立を目指せるように頑張りたいと思いました。
- ・先生のお話を聞いて、これからの私たちの将来についてじっくり考えることができました。大学選びはこれからの生活の質とか、いろいろなことのすべての決定権になりかねないのだと分かりました。これからの学校での生活で、勉強の目標は目の前のことでいっぱいになるのではなく、自分の人生を左右することなんだと思うことが大切だと思いました。
- ・今まで大学のパンフレットを見ているとき、就職率や国家試験合格率など、具体的な数字として出ているものを重要視していましたが、それも当てにならないことを知りました。結局は、良い大学に行ったとしても、良い先生との巡り会いや、自分自身のやる気がないと自分の夢は叶えられないのだなと思いました。
- ・今回の話を聞いて、昔と今では受験者数と大学数が大きく変わったこと、そして国公立大学や難関私立大学を受かろうとする姿勢が大切だとわかりました。今日しか聴けない大学と採用に関わるデータを見ることができて良かった。
- ・内申を上げて指定校推薦などを取れたら楽だなとか思っていたけど、そんな簡単に将来を決めてはいけないなと思いました。最後まで国公立大学を目指せるようにしたい。大学選びも入学も難しいと思ったし、慎重に選択したい。「前のめり」に頑張ります。
- ・大学について深く考えることができた。先生方に相談するのが、リアルタイムで知っているのが良いと思った。偏差値はひとつの指標に過ぎなくて、もっと他の面を見る必要があることもわかりました。国公立大学や難関私立大学を目指して頑張ることが大切。